

Mariko Senju

Afternoon Concert

千住真理子 (ヴァイオリン)

Mariko Senju, Violin

2歳半よりヴァイオリンを始める。全日本学生音楽コンクール小学生の部全国1位。NHK交響楽団と共演し12歳でデビュー。日本音楽コンクールに最年少15歳で優勝、レウカディア賞受賞。パガニーニ国際コンクールに最年少で入賞。慶應義塾大学卒業後、指揮者故ジュゼッペ・シノーポリに認められ、87年ロンドン、88年ローマデビュー。国内外での活躍はもちろん、文化大使派遣演奏家としてブラジル、チリ、ウルグアイ等で演奏会を行う。また、チャリティーコンサート等、社会活動にも関心を寄せている。

1993年文化庁「芸術作品賞」、1994年度村松賞、1995年モービル音楽賞奨励賞各賞受賞。

1999年2月、ニューヨーク・カーネギーホールのウェイル・リサイタルホールにて、ソロ・リサイタルを開き、大成功を収める。

2002年秋、ストラディヴァリウス「デュランティ」との運命的な出会いを果たし、話題となる。

2021年「蛍の光〜ピースフル・メロディ」、2022年「ポエジー」。2023年山田洋次監督作品「こんにちは、母さん」のサウンドトラックに参加。また千住明のプロデュースによるアルバム「ARIAS」、2024年はデビュー当時の音源も収録した「ベスト&レア」アルバムをリリース。2025年はデビュー50周年を迎え全国で演奏会を行う。春にはデビューアルバムと同じくCD「メンデルスゾーン&チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲」を発売。

コンサート活動以外にも、講演会やラジオのパーソナリティを務めるなど、多岐に亘り活躍。著書は「聞いて、ヴァイオリンの詩」（時事通信社、文藝春秋社文春文庫）「歌って、ヴァイオリンの詩2」「ヴァイオリニストは音になる」（いずれも時事通信社）「ヴァイオリニスト 20の哲学」「続ける力」（ヤマハミュージックメディア）母との共著「母と娘の協奏曲」（時事通信社）「命の往復書簡2011〜2013」（文藝春秋社）「千住家、母娘の往復書簡」（文藝春秋社文春文庫）など多数。

千住真理子オフィシャル・ホームページ <https://marikosenju.com/>

© Kiyokata Saito(SCOPE)

山中惇史 (ピアノ、作曲・編曲)

Atsushi Yamanaka, Piano

東京藝術大学音楽学部作曲科を経て同大学音楽研究科修士課程作曲専攻修了。後に同大学器楽専攻ピアノ科卒業。第26回奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門第1位受賞。器楽、室内楽、合唱など多数がヤマハミュージックメディア、カワイ出版などから出版されている。

またピアニストとしては2018年にリサイタル・デビュー。共演者としても絶大なる信頼を置かれ、国内外の著名なアーティストに指名を受け共演を重ねる。ピアニスト、作曲家、アレンジャーとして参加した各CDはレコード芸術誌にて特選盤、準特選盤に選出されている。

東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、群馬交響楽団など多数のオーケストラとの共演、作品が演奏されている。2020年にピアニスト・作曲家の高橋優介とのピアノデュオ『176』（アンセットシス）を結成。自らの編曲によりオーケストラ作品の演奏に挑み、第1弾として『レスピーギ/ローマ三部作』をメインに演奏会を開催、同時にカワイ出版より楽譜出版、ライブレコーディングもされた。2021年10月13日にアルバム『ジョン・ウィリアムズ・ピアノコレクション』をエイベックス・クラシックスより発売。さらに2023年2月22日に最新アルバム『ショパン-旅路-』を日本コロムビアより発売。

2021年には、ピティナ・ピアノコンペティション特級新曲課題曲、朗読音楽劇「シャーロックホームズ」（主演・山寺宏一、脚本/演出/構成・野坂実）の作曲を担当、セントラル愛知交響楽団定期公演に招かれリスト/ピアノ協奏曲第1番を演奏など、活動は多岐にわたる。

X(旧Twitter):@ginyamagin

Instagram:@yamanaka.atsushi



© Takafumi Ueno



TVhコンサート・メンバーズ メール会員募集中!

テレビ北海道開催コンサートチケットの発売情報、出演アーティストやコンサートについての最新情報をメールでお届けします。無料のメール会員ですので、お気軽にご登録ください。

TVhコンサート 検索

